科目ナンバリング	U-LAS02 10011 LJ36						
授業科目名<英訳>	漢文学Ⅰ The Chinese Classics I			担当者所属 職名・氏名	人文科学研究所 教授　　矢木　毅		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	芸術・文学・言語(基礎)	使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2025・前期	曜時限	月2	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

漢文を基礎から本格的に学習するための教材として、朝鮮王朝時代に編纂された『龍飛御天歌』を読む。

『龍飛御天歌』は中国・朝鮮における歴代帝王の功績を讃えた頌歌。ハングルの「歌」と漢文の「詩」とから成り、その内容を説明するための「註解」と「音訓」を付す。授業で取り上げるのは主として註解と音訓。朝鮮典籍といってもハングルではなく、純然たる漢文体の著作であるのでご安心いただきたい。

註解の内容は、基本的には有名な司馬光『資治通鑑』のダイジェスト版である。しかしこれには先行する元の胡三省の註、その他を踏まえて独自に小註（音訓）が付されているので、これらの小註についてもなるべく丁寧に読み進めていきたい。

テキストの本文には句読が付されており、要所要所には漢字の声調（四声）を示す記号（圏発）が付されている。さらに小註では漢字の発音（反切）が示されるとともに、読解に際して間違いやすいところ、注意すべきところ、および人名・職官・地理などに関する基本情報が、実に丁寧に説明されている。この小註を通して漢文の基礎、延いては歴史書の読み方についても学んでほしい。

[到達目標]

１）高等学校で学んだ漢文訓読の知識を基礎として、我が国の伝統文化を支えてきた漢文の読解能力に磨きをかける。
２）さらに「白文」による学習に取り組み、訓点に頼らずとも漢文の史料が読めるようになる。
３）漢文史料の詳細な読解を通して、中国・朝鮮の躍動感あふれる歴史記述を独力で読み進めることができるようになる。

[授業計画と内容]

第１週に『龍飛御天歌』の概略を説明し、第２週以降は講読形式によりテキストの読解を進める。全１２５章のうち、当面、第４１章（唐太宗）から読み進める予定である。前半は講師が講読を主導し、後半は受講生が講読を分担する。進度は受講生の取り組み次第であるが、おおむね１回につきテキスト２葉分（Ａ４打ち出しプリント１ページ分）を予定している。なお、第８週には中間考査（小テスト）を行う。

第１週　『龍飛御天歌』解説
第２週　『龍飛御天歌』講読１
第３週　『龍飛御天歌』講読２
第４週　『龍飛御天歌』講読３
第５週　『龍飛御天歌』講読４
第６週　『龍飛御天歌』講読５
第７週　『龍飛御天歌』講読６
第８週　中間考査/解説と復習

漢文学Ⅰ(2)へ続く↓↓↓

漢文学Ⅰ(2)

第９週　『龍飛御天歌』講読７
第10週　『龍飛御天歌』講読８
第11週　『龍飛御天歌』講読９
第12週　『龍飛御天歌』講読10
第13週　『龍飛御天歌』講読11
第14週　『龍飛御天歌』講読12
《期末試験》
第16週　フィードバック

[履修要件]

高等学校における漢文の教科の基本的な知識を身に着けていることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

（１）７５パーセント以上の出席を要求する。
（２）出席要件を満たす者について、中間考査（１００点）と期末試験（１００点）の合計得点を１００点満点に換算して成績評価を行う。
（３）中間考査・期末試験では、講読したテキストの範囲内において、漢文の句法、書き下し、並びに現代語による解釈等について出題する。

[教科書]

プリントを配布する(『龍飛御天歌』影印本、およびテキストの打ち出しプリント）。

[参考書等]

（参考書）
西田太一郎『漢文の語法』（角川ソフィア文庫, 2023）ISBN:9784044006341（授業では直接取り上げないが、関連書籍として推薦する。）
吉川幸次郎『漢文の話』（筑摩書房）ISBN:9784480090270（授業では直接取り上げないが、関連書籍として推薦する。）
前野直彬『漢文入門』（筑摩書房）ISBN:9784480097095（授業では直接取り上げないが、関連書籍として推薦する。）

（関連ＵＲＬ）

http://www.library.pref.osaka.jp/site/oec/index.html(大阪府立図書館「おおさかｅコレクション」では、『龍飛御天歌（順治本）』の全文画像が閲覧できる。適宜、参照していただきたい。)

[授業外学修（予習・復習）等]

角川書店『新字源』、またはそれと同水準の漢和辞典（書籍版、もしくは電子版）を常に手元において学習すること。また、漢和辞典の附録（特に助字や句法の解説）についても通読しておくこと。

[その他（オフィスアワー等）]

受講生による講読（発表）の機会を確保するために、受講登録人数は２５名までに制限する（人数が超過する場合は抽籤）
漢文の修得に王道はない。この授業を通して助字の用法、および漢文の句法に習熟し、独力で「白文」が読めるようになることを期待したい。

[主要授業科目（学部・学科名）]